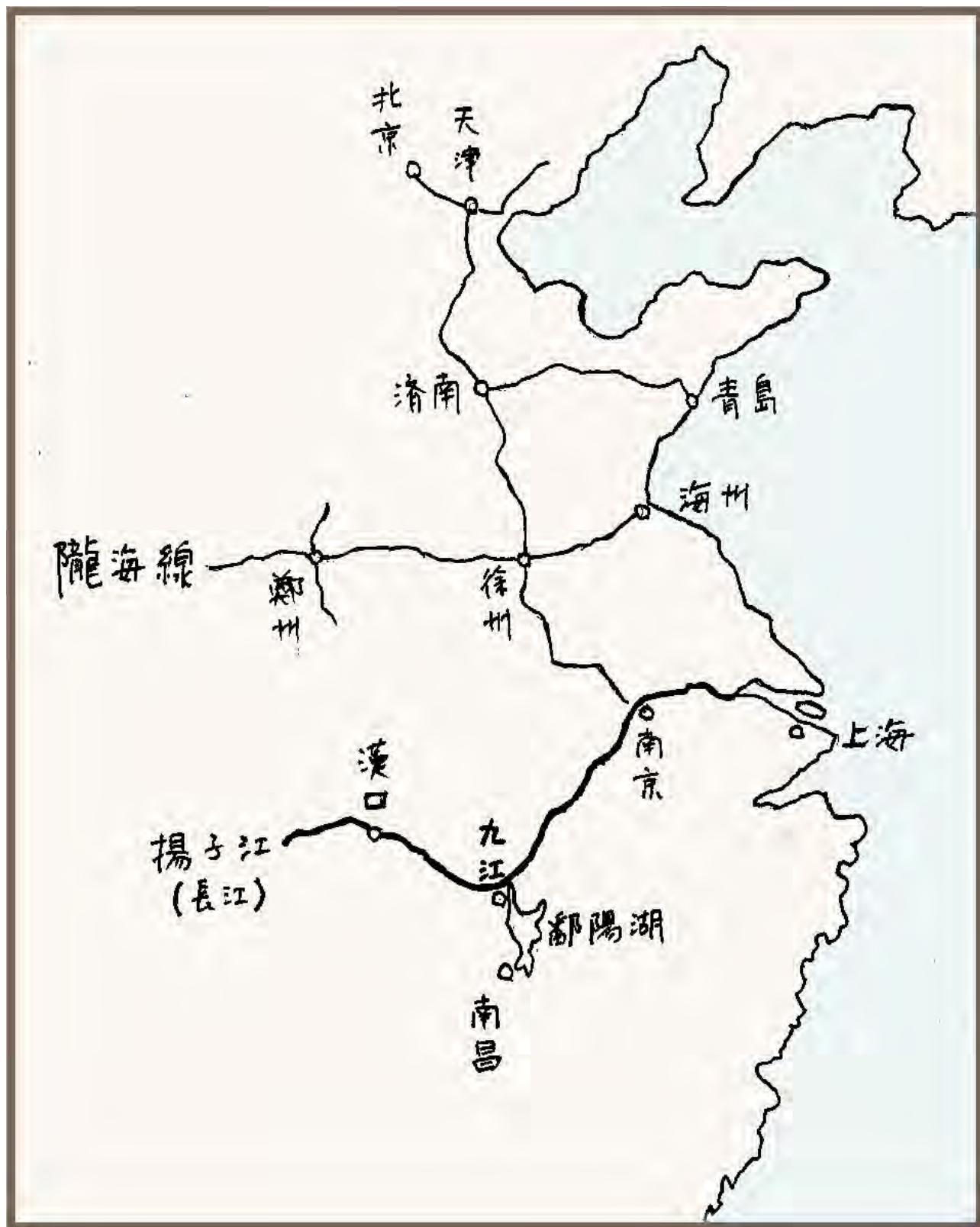


メルマガ35号「戦争中の新聞等からみえる戦争と暮らし
— 淡水魚をナマで食べる」 参考画像 1 地図



③ 軍進の阪大へ陸大

軍進前まで日本人が僅かに二十九人しかみなかった九江の街が皇軍の手で厚生して賑かに一年半、物のみごとに日本色の濃い興亞の街に轉身し、嵐山通ひの外入産を驚かせてゐる、なかでも目を射るのは物産大取人と大阪商品の進出だ、九江の目黒街大仲路は然目ちやないがまるで浪華大路の出店のやうな大阪情緒で風靡してゐる、商店街の店頭で化粧品や日用品をみてもメリヤスシャツや足袋をとりあげても〇〇印、〇〇印の懐しい大阪商品はばかり、また葉屋さんの軒下に積みあげられた菓子の空箱も「大阪東區道修町×丁目××商店」の文字が目をはびく、さらに食料品店の陳列棚に目白押しに青豆ぶんの金銀や部類、さては吹田のアサヒビールなど酒やビールにいたるまで大阪製品が幅を利

板場の腕の冴えで

揚子江の鯉も上方料理に

九江こゝも大阪商品の山

員派特山小

かしてゐる

◇……◇

一方食堂街に踏入ると大阪すしがあり、浪華すし、大阪屋など華商部の代名詞が花散らしさすがは食通の大取人をこなした板場さんだ、食つたら腐ができるとか中毒

するとかいつて怖れられてゐた揚子江の鯉も香腸粉の酢も何のそのだ、大阪板場の腕の冴えにまかせておぼつばらに食卓にのぼり粋な扁田や銀杏返しのお嬢さん達のサーヴィスで押すな押すなのお蔭ふりで、千日前や道頓堀あたりの食堂

街に飛びこんだやうな情緒だ、最近九江における一般物資の搬入状態は月々さつと百萬圓、しかもその八割までが大阪商賈の買取りだ日には大取人土の鼻息思ふべ



目貫通り大仲路に見る大阪色

小山特派員撮影

メルマガ35号「戦争中の新聞等からみえる戦争と暮らし
— 淡水魚をナマで食べる」 参考画像 3 写真

